

平成 29 年度

本科卒業時アンケート調査結果報告書

平成 29 年度本科卒業時アンケート調査結果

1. はじめに

本校の教育水準の向上と教育内容の充実と改善を目的として卒業生を対象にアンケート調査を実施しました。

2. 調査方法およびアンケート内容

2-1 調査方法

平成 29 年度本科卒業生 284 名を対象に Web アンケート形式で実施しました。実施期間は平成 30 年 3 月、最終回答締切りは平成 30 年 3 月 30 日に設定しました。

2-2 アンケート内容

- ① 本校進学時に希望したコースとコースは同じですか？
- ② 所属したコースに対する満足度は？
- ③ 卒業研究に従事した達成感は得られましたか？
- ④ 専門知識を応用して卒業研究に取り組むことが出来ましたか？
- ⑤ 卒業研究や実験授業では自主的・計画的に継続して取り組むことが出来ましたか？
- ⑥ 卒業研究や授業で与えられた課題に対して、理論的に思考して、プレゼンテーションを行うことは出来ましたか？
- ⑦ 専門科目の授業（座学）を通じて、専門基礎知識を身に付けることは出来ましたか？
- ⑧ 専門科目の授業（実験・実習）を通じて、専門知識や技能を身に付けることは出来ましたか？
- ⑨ 一般科目（理数系科目）の授業を通じて、数学や自然科学などの基礎力を身に付け、それを専門分野に応用できましたか？
- ⑩ 一般科目（国語、外国語、社会党の文系科目）を通じて、幅広い教養が身に付くと同時に産業界や地域社会、国際社会に貢献できる素養が持てましたか？
- ⑪ 工学的立場から社会に存在する問題点を発見して、それを今後、解決していく自信が得られましたか？
- ⑫ 卒業後の進路について、希望する進路に就くことが出来ましたか？
- ⑬ 自身のクラブ・同好会活動に対しての満足度は？

3. アンケート回答数

回答数は、機械システム工学コース 35/36 名、生産システム工学コース 29/33 名、電気電子工学コース 34/38 名、電子情報工学コース 22/23 名、情報通信工学コース 13/31 名、ロボット工学コース 37/40 名、航空宇宙工学コース 32/41 名、医療福祉工学コース 26/42 名、合計 228/284 名で回答率は 80.3%でした。

4. アンケート結果

13 項目の質問内容を質問番号①～⑬として質問項目別に回答結果の平均値を図 1 に示しました。すべての質問項目について回答平均値は 3.00 を超えました。中でも質問②（所属したコースに対する満足度（回答平均 3.49））、質問④（専門知識を応用して卒業研究に取り組むことが出来たか（回答平均 3.37））等の所属したコースや、取り組んだ卒業研究に対する満足度は比較的高い結果が得られました。

また、質問⑧（専門科目の授業（実験・実習）を通じて専門知識や技能を身に付けることが出来た（回答平均 3.39））等の専門科目に関する知識や技能に関する回答は、質問項目の中では高い結果が得られ、更に質問⑫（卒業後の進路について希望する進路に就くことが出来たか（回答平均 3.36））等の進路に関する回答も一定の評価が得られました。

一方、質問⑩（一般科目（国語、外国語、社会等の文系科目）を通じて幅広い教養が身に付くと同時に産業界や地域社会、国際社会に貢献できる素養が持てましたか（回答平均 3.00））等の一般科目と専門科目の連携した質問事項や、質問⑪（工学的立場から社会に存在する問題点を発見してそれを今後解決していく自信が得られましたか（回答平均 3.06））等、広い観点への応用力習得には 13 質問項目中では高い回答結果が得られたとはいえ検討の余地があると考えます。

次に、コース別に回答平均値を算出してその結果を図 2 に示しました。コース間で比較的差が認められる項目は、質問①（本校進学時に希望したコースとコースは同じですか（標準偏差 0.33））、質問③（卒業研究に従事した達成感は得られましたか（標準偏差 0.26））、質問⑩工学的立場から社会に存在する問題点を発見してそれを今後解決していく自信が得られましたか（標準偏差 0.26））、質問⑬（自身のクラブ・同好会活動に対する満足度（標準偏差 0.36））でした。

また、コース間で回答結果の差が小さな項目は、質問⑤（卒業研究や実験授業では自主的・計画的に継続して取り組むことが出来たか（標準偏差 0.10））、質問⑦（専門科目の授業（座学）を通じて、専門基礎知識を身に付けることは出来たか（標準偏差 0.11））、質問⑧（専門科目の授業（実験・実習）を通じて、専門知識や技能を身に付けることは出来たか（標準偏差 0.10））でした。

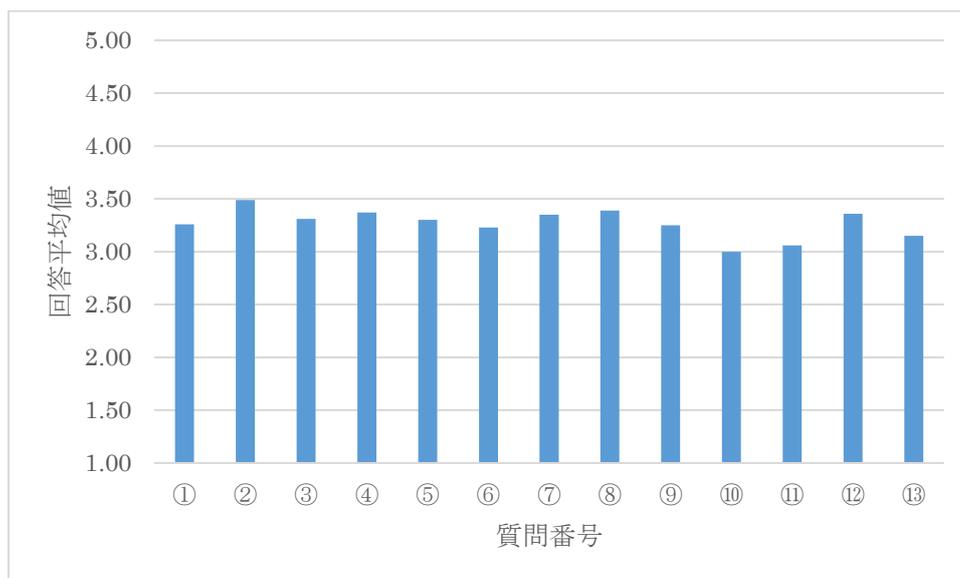


図1 アンケート回答結果（質問番号別回答平均値）

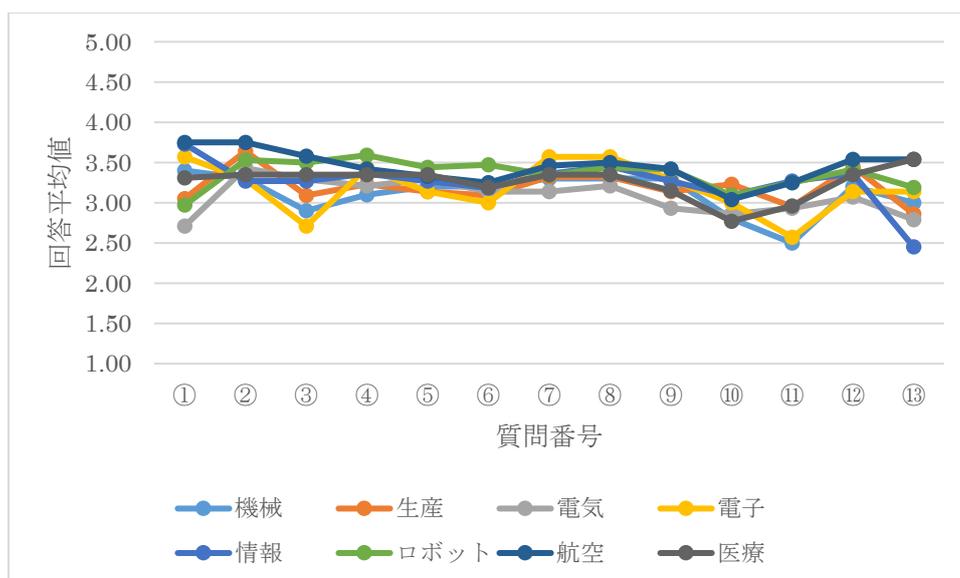


図2 アンケート回答結果（コース別回答平均値）

5. ディプロマ・ポリシーの充足性の検討

5-1 ディプロマ・ポリシーとアンケート項目

本校は卒業の認定に関する方針をディプロマ・ポリシーとして以下 6 点を定めています。

- (1) 自主的・計画的・継続的に学習する能力
- (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力

- (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動が出来る能力
- (4) 数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを活用する能力
- (5) 専門知識に活用して問題を解決する能力
- (6) 工学的な立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力

本アンケート結果からディプロマ・ポリシーの充足性を検討することにします。具体的にはアンケート質問内容とディプロマ・ポリシーを整合させたうえで、本調査結果を照合します。ディプロマ・ポリシー(1)は、アンケート質問番号⑤と対応しており、身に付ける能力は学習力と考えることができ、以下の通り対応させてアンケート結果から検討します。

- ・ディプロマ・ポリシー(1)→アンケート質問番号⑤
- ・ディプロマ・ポリシー(2)→アンケート質問番号⑥
- ・ディプロマ・ポリシー(3)→アンケート質問番号⑩
- ・ディプロマ・ポリシー(4)→アンケート質問番号⑨
- ・ディプロマ・ポリシー(5)→アンケート質問番号④
- ・ディプロマ・ポリシー(6)→アンケート質問番号⑪

5-2 検討結果

アンケート結果の回答平均値がすべての質問項目で 3.0 を超えていることから、6つのディプロマ・ポリシーは一定水準を満たしているものと考えられます。値の高低から6つの中で検討の必要があると考えられる事項は、ディプロマ・ポリシー(3)と(6)となります。すなわち一般科目(国語、外国語、社会党の文系科目)を通じて、幅広い教養が身に付くと同時に、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために豊かで幅広い教養をもって技術者としての責任ある思考と行動が出来るよう、また、工学的立場から問題点の発見し、発見した問題を解決する能力育成により力点を置くことが望まれます。特に後者は工学コース間でのばらつきが大きいことも確認できました。

6. まとめ

平成 29 年度卒業生を対象として 5 段階評価で回答するアンケートを作成して実施しました。その結果、評価平均値はすべて 3.00 を超えました。13 の質問項目の中で比較的高い評価が得られた項目は、卒業研究への取り組み、実験実習を通して知識や技能が身につけられたことなどの専門性の修得が出来たとの事項と、希望する進路に就くことが出来たとの事項でした。

一方、アンケートの質問項目と本校ディプロマ・ポリシーの整合性に配慮してアンケート結果を検討しました。地域社会、国際社会に貢献するための幅広い教養と専門性の修得、工学的専門知識の社会課題への応用等、問題発見から解決応用など広範囲の適用能力育成は今後の課題となり、エンジニアリングデザインなどの各コース独自の開発、取り組みなど、新規科目の教育成果が期待されます。